学校番号	１００７

令和３年度　国語科

教科	国語	科目	古典Ａ	単位数	２単位	年次	３年次
講座名	古典文学鑑賞						
使用教科書	古典Ａ　物語選　改訂版（大修館書店）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

広く、浅く古典に親しむための講座で、様々な作品を文法事項にあまりこだわらず読み下します。また内容を紙芝居にしたり、関連する映画を見て討論したりすることを通して、様々な角度から古典の世界に迫ります。
単なる座学のみの授業に終わらず、いろいろな取り組み（映画鑑賞や文語の文章での作文、挿絵作り）を行います。１０分プランとして、一つは唱歌の DVD を見て、歌詞の意味を理解し、日本の季節の美しさや文化について学ぶ機会とし、もう一つは「イソップ童話」の元である「伊曽保物語」を聞き、古文のリズムや内容に親しみます。

２　学習の到達目標

・古文や古典に関連する文章を読むことによって、日本の伝統と文化に対する理解を深めている。
・様々な角度から古典の世界に触れ、生涯にわたって古典に親しむ態度を育んでいる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す･聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	古典を読む楽しさを味わい、古典に親しむとともに、日本の伝統と文化に対する関心を深めようとしている。			まとまりのある古典を読み、古典に表れた思想や感情を捉え、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴などの理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	行動の観察（出席状況） 記述の点検（ノート、プリント課題等）			記述の確認（プリント課題等） 定期考査	記述の確認（ノート、プリント課題等） 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1ターム	古文の随筆を読む	教材:『枕草子』 「すさまじきもの」 「中納言参りたまひて」	○			○	○	a: 文章に書かれている書き手の意見を表現に即して読み、考察しようとしている。 d: 文章に書かれている書き手の意見を表現に即して読み深めている。 e: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a:行動の観察、記述の点検 d:記述の確認、定期考査 e:定期考査、小テスト
2ターム	古文の随筆を読む	教材:『方丈記』 「安元の大火」 教材:『徒然草』 「丹波に出雲といふ所あり」	○			○	○	a: 文章に書かれている書き手の意見を表現に即して読み、考察しようとしている。 d: 文章に書かれている書き手の意見を表現に即して読み深めている。 e: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a:行動の観察、記述の点検 d:記述の確認、定期考査 e:定期考査、小テスト
3ターム	古文の説話を読む	教材:『今昔物語』 「安倍晴明」 教材：『宇治拾遺物語』「検非違使忠明のこと」 教材：『十訓抄』 「大江山いくのの道」	○			○	○	a:文章に描かれている出来事や人物の心情を表現に即して読み、自らにひきつけながら味わおうとしている。 d:文章に描かれている出来事や人物の心情を表現に即して読み深めている。 e: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a:行動の観察、記述の点検 d:記述の確認、定期考査 e:定期考査、小テスト
4ターム	歌物語を読む	教材:『大和物語』 「をばすて」	○			○	○	a: 文章に描かれている出来事や人物の心情を表現に即して読み、土地の伝説に興味・関心を持っている。 d:文章に描かれている出来事や人物の心情を表現に即して読み深め、そこに見られる現代的・普遍的な意味を知る。 e: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a:行動の観察、記述の点検 d:記述の確認、定期考査 e:定期考査、小テスト

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力　c:書く能力
d:読む能力　e:知識・理解

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。